

軍需品工業への影響は左の如き工場である。

軍需品工場と會社の株の高底(單位圓)

會社名	七年	六年	會社名	七年	六年
日本鋼管	六、〇	三、〇	住友伸銅工	七、〇	六、〇
新瀨鐵工	三、〇	四、〇	神戸製鋼所	六、〇	五、〇
東京製鋼	四、五	三、〇	日本伸銅	五、〇	四、〇
戸畑鐵物	五、二	四、一	徳山鐵板	四、〇	三、〇
浦賀船渠	五、七	四、二	合同自動車	三、〇	二、〇
横濱船渠	六、五	五、五	日本車輛	三、〇	二、〇
石川島造船	六、〇	五、五	三菱航空機	三、〇	二、〇
川崎造船	六、三	六、一			
大阪鐵工	三、五	三、〇			
機械工作	三、〇	二、六			
北樺太石油	六、五	三、五			
瓦斯電氣	三、〇	二、〇			
藤永田造船	三、〇	二、〇			

五、貿易部門に於ては次の表に示す如く昇張を辿りつゝある。

る多少の賃銀収入の増加は實質的增加に非ずして物價騰貴により賃銀二割五分を低下せしめられたと同様の結果であり従つて勞働強化に外ならないのである。

輸出貿易の増加は勞働階級の物價指數と賃銀指數の差額に伴ふ好轉であり、こゝにこそ勞働階級の犧牲即ち實質賃銀引下げによる搾取こそが支配階級の政治權力の下に行はれるインフレ政策を通じて無産階級への重壓である。

我が同盟は昨年十二月第二回中央委員會に於て闘争方針を決定し直ちに實踐に移し果敢なる闘争を続け來つたのである。

3 米國金融恐慌とインフレーションの展望

全世界の金融市場を掌握せる米國が突如として金融部門破綻の飛報起るや、全世界に於ける金融市場の動搖混亂、停止を見るに至つた。

これが我國に與へる影響を明確に認識することに於てこそ吾等の闘争方針の正確さを定め得るものである。

ブルジョア經濟學者が主張するが如く、米國金融恐慌がシソガ洲の一角に投ぜられたる單なる波及ではなく、昨年我が同盟の全國大會に於て、一九二九年米國に起りし金融恐慌が未だに脱却せず其の潜在力は第三期に於ける世界資

吾國最近の輸出入貿易表 單位千圓

輸出	輸入
1930年 1,469,852	1930年 1,516,070
1931 1,146,981	1931 1,235,672
1932 1,409,991	1932 1,414,161
1932年 1月 70,582	1932年 1月 115,905
2 80,130	2 128,280
3 101,018	3 166,535
4 92,782	4 142,821
5 103,463	5 151,638
6 101,768	6 111,633
7 110,789	7 68,152
8 136,682	8 73,363
9 140,747	9 95,773
10 147,457	10 97,772
11 151,857	11 119,246
12 172,718	12 160,986

六、勞働階級への影響

第一の影響は第三の部門を支配し、物價をして二十五%の騰貴を見るに至り、生産部門に於ては軍需インフレに附隨する軍需工業は第四の表に示せるが如き躍進的發展を見た、輸出貿易の主体とする工業に於ても亦圓安爲替によつて第五の表に示せるが如き發展を見るに至つた。然れども無産階級の立場の觀點は、軍需品關係に於け

本主義の矛盾の増人と共に表面化し來るであらうことを觀破せるとである。

米國の生産力の減退は (米國綜合生産指數統計表)

一九二八年五月	一〇一、三
一九二九年五月	一一〇、一
一九三〇年五月	九〇、〇
一九三一年五月	七八、一
一九三二年五月	五二、九

六百萬の失業者と相俟つて最後の消費者である無産階級の購買力の減退こそが米國金融恐慌の最大の要因であり世界資本主義の没落段階への表徴である。

全世界のブルジョアジエは資本主義没落を隠蔽し資本主義史生策として世界インフレーションを強行するであらうことも亦明白であるが、かゝる觀點に起つて米國金融恐慌が日本資本主義に及すべき影響を見るに、米國の正貨保有高四十一億九千九百萬ドル(一九三二年九月)

通貨流通高七十億ドルに對しインフレの第一歩として米國財務局引受けに於て兌換券二十八億ドルを發行した。貿易の關係に於ては一九三二年輸出十三億二千三百萬ドル、輸入十六億一千七百萬ドルであつて差引二億の入超を